

300点超えエミリーの

新連載

効率的「ふぞろい」活用法

第 1 回

「ふぞろい」を使った 設問トレーニング

A1 まなび生産性向上
松永 恵璃加

株式会社まなびコンサルティング 代表取締役
中小企業診断士

診断士試験の学習支援事業「まなび生産性向上」を営んでいるエミリーこと松永です。私は、診断士受験においては、独学、ストレート、短期間学習、2次試験300点超えと、4拍子で合格することができました。今月から、2次試験の得点を上げるための「ふぞろい」を使った効率的な学習法について、全6回にわたって解説します。

また、連載のオマケとして、「ふぞろい」を活用した設問&カテゴリキーワード集（令和3～4年度試験対応）を同時掲載します。ぜひ、毎号集めていただき、2次試験対策にご活用ください。

1. 「ふぞろい」とは

皆さんもご承知のとおり、2次試験は公式解答が公表されません。そのため、多くの再現答案から正解を推測している「ふぞろい」シリーズを使って勉強することが効果的です。

「ふぞろい」とは、参考書『ふぞろいな合格答案』シリーズ（同友館）のことです。本書では、診断士2次試験における膨大な数の再現答案が分析されています。同書に掲載されている「ふぞろい流採点基準」を使えば、解いた過去問を自己採

点することも可能です。

解答がない2次試験において唯一の羅針盤といっても過言ではないのが、「ふぞろい」なのです。

【ふぞろいを使うべき理由】

①代替するものがない

不完全さ、分析精度の向上余地に不足があったとしても、再現答案を多く集めて分析結果と内訳を公表している媒体が他にない以上、「ふぞろい」が最も本試験の得点に近い情報となります。

②合格に必要な情報はそろっている

「ふぞろい」の中身を見れば、解答としての要素はだいたい洗い出されていることがわかります。したがって、再現答案数が全体の5%程度でも、大きな抜け漏れはないだろうと推測できます。

③配点の多少のズレは許容できる

たとえば、「この要素の配点が、『ふぞろい』では5点だったのに、本試験では7点だった」といったズレが多少はあったとしても、そのズレを許容して勉強のPDCAを回すことはできます。「ふぞろい」の点数は優先順位の重みづけです。1点の要素よりも、5点の要素を書けるように修正していくとよいでしょう。

2. 設問トレーニングとは

2次試験の問題を解くには80分のまとまった時間が必要です。80分のまとまった時間が取れない場合は、スキマ時間において振り返りや設問トレーニングを行うことが効果的です。

設問トレーニングは、設問だけを見て、「どのような要素を解答すればよいか」を考える練習法です。2次試験の問題を解く際、解答に盛り込む要素は、与件と脳内（1次試験知識）のそれぞれから引っ張ってくる必要があります。この脳内から要素を引っ張ってくる練習に慣れることで、解答作成のスピードアップを図ることができます。

設問トレーニングの手順を解説する前に、2次試験におけるQとAの構造について説明しておきます。2次試験は、設問Qに対して解答Aを答える形になっています。設問には、解答が大きく外れないように、「この範囲の内容を答えてください」という制約条件=ヒントも与えられています。

答えるAは、答えるべきカテゴリ、カテゴリ内の要素（キーワード）という構造で捉えることができます。また、カテゴリ内の要素には、与件から引っ張ってくるものと、脳内から引っ張ってくるものがあります。具体例を示しましょう。

「ふぞろい」には、再現答案を分析し、高得点答案に多く使われている解答キーワードをランキング化した図表が掲載されています。この問題の設問Qに含まれているもの（図表1）、ふぞろいの解答キーワード（図表2）、答えるA（図表3）は右のようになります。

設問トレーニングでは、与件を読まずとも、設問を読むだけで、解答に盛り込む要素を挙げていきます。この例で言えば、カテゴリの「獲得・定着の施策」や「効果」、要素の「OJT教育」などを自力で挙げられるようにしていきます。

令和4年度 事例I 第2問

A社が新規就農者を獲得し定着させるために必要な施策について、中小企業診断士として100字以内で助言せよ。

図表1 設問Qに含まれているもの

答えてほしいことQ	施策の助言
制約条件=ヒント	新規就農者を獲得し定着させるためのことを言う

図表2 「ふぞろい」の解答キーワード

獲得・定着の施策 (MAX17点)		
ランク	解答キーワード	点数
1位	地域交流に言及	5点
2位	OJT教育に言及	5点
	減点 OJTに触れず教育だけに言及	-2点
3位	企業理念や農業の魅力に言及	5点
4位	マニュアル化・標準化に言及	3点
5位	働きやすい環境・働き方に言及	3点
6位	Off-JT教育（研修・能力開発）に言及	2点
7位	農業体験・インターンに言及	2点
8位	社内交流・コミュニケーションに言及	2点

効果 (MAX3点)

ランク	解答キーワード	点数
1位	定着率を高める・帰属意識を高める	2点
2位	獲得する・利用する	1点
3位	モチベーションを高める	1点

図表3 答えるA

答えるべきカテゴリ	獲得・定着の施策、効果
カテゴリ内の要素=キーワード	地域交流、OJT教育、…
与件から引っ張ってくるもの	地域交流、…
脳内から引っ張ってくるもの	OJT教育、…

3. 設問トレーニングの手順

設問トレーニングは、下記の手順で行います。

(1)、(2)の手順は、特に筆考で行うことをお勧めします。もっとも、稀に在る文章を正しく読めるという方や、移動中のスキマ時間でトレーニングを行う方であれば、単語カードの学習のように暗考でもよいと思います。

(1) 設問を正しく読み解く

診断士2次試験の過去問題を用意し、その設問を正しく読み解きます。

実は、「文章を正しく読む」ことは難易度が高い行為です。人間は、長文になると文章を読み飛ばしてしまいがちになり、そのことによる勘違いも多く発生します。書いてある内容を正しく理解できていないことのほうが多いと思ってください。「自分は日本語が正しく読めている」と勘違いしたままだと、正しく読むための練習をしないため、いつまで経っても文章を正しく読めるようになりません。

では、どうしたら正しく読めるようになるかと言うと、書いて考える「筆考」をするしかありません。人間は基本的に、複雑な暗算ができないように、複雑なことを頭の中であれこれと考える「暗考」はできない仕組みになっています。長い文章を長い文章のまま、理解することはできないと思ってください。

したがって、設問を読み解く際は、重要なキーワードに線を引く、囲う、ピックアップしてメモするなど、書いて考える「筆考」を行ってください。ご自身に合った読める方法で、設問に含まれている「答えてほしいことQ」と「制約条件=ヒント」を読み解いていきましょう。

(2) 答えるべきカテゴリ、要素を洗い出す

設問を読み解くことができたなら、次は答えるべきカテゴリ、要素を洗い出します。この際、与件を読まないといけないことは、わからないままでOKです。与件を暗記しておく必要はありません。

設問を正しく読み解き、答えるべきカテゴリや要素を洗い出す訓練を積んでいくことで、「何となく」ではない論理的な解答が作れるようになります。

(3) 「ふぞろい」の解答キーワードと比較する

ここで、「ふぞろい」を活用します。(2)で洗い出した要素を、お手持ちの「ふぞろい」に掲載されている同問題の解答キーワードと比較し、仮の答え合わせをしていきましょう。自分が思いつかない知識があれば、ここで蓄積していきます。

4. 設問トレーニングの注意点

私は、この「ふぞろい」を活用した設問トレーニングの効果は非常に大きいと感じています。ただし、この設問トレーニングでは、「与件から解答要素を引っ張ってくる」練習が除外されているため、与件怪視にならないように注意する必要があります。

「設問」と「1次試験知識」だけでは解答が作れない場合は、必ず「与件」に解答要素を探しに行くため、大きい事故は起こりにくいでしょう。しかし、中途半端に解答が作れてしまう状況であれば、大変危険です。過去問題を解く際には、必ず与件からの解答要素の漏れがないよう、チェックしてください。

今月は、令和4年度の事例Ⅰの問題&カテゴリキーワード集を掲載します。コピー・スキャンしてご活用ください。